

ロードプライシングの早期実現に関する要望書

鎌倉市内の交通渋滞の解消は、本市にとって長年の課題であり、特に市の中心部である鎌倉地域においては、休日を中心に著しい交通渋滞が発生し、公共交通の利便性の低下や生活環境の悪化、また、緊急車両の通行困難など市民生活に大きな支障を来たしています。

これまで、本市では、自動車交通から公共交通への転換策となる交通施策等に取り組んできましたが、抜本的な渋滞解消には至っていません。こうしたことから、平成24年(2012年)5月に「鎌倉市交通計画検討委員会」を設置し、ロードプライシングをはじめとする交通施策を効果的に推進するための検討を行っているところです。

特に、ロードプライシングの実現に向け、平成28年(2016年)1月には「鎌倉市交通計画検討委員会・特別委員会」を新たに設置し、市単独での検討が困難な法制度や技術面などの専門的な課題について検討しているところです。

このような中、本市は平成29年(2017年)9月にICT・AIを活用したエリア観光渋滞対策の実験・実装を図る「観光交通イノベーション地域」に選定していただき、現在、貴省が設置する「鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会」において、可搬型ETC2.0路側機やAIカメラなどから得られたデータをもとに市民生活への影響について分析をしていただいております。

また、平成30年(2018年)6月には「未来投資戦略2018」と「経済財政運営と改革の基本方針2018」が閣議決定され、今後、国としても交通需要調整のための料金施策の検討を推進して行くことが示されたところです。

本市としては、観光地の交通渋滞の解消を図るため、これまで検討を進めてきたロードプライシングの早期実施を目指し、市では解決困難な課題に関し、高度な技術的見地を有する貴省のご支援をいただきながら、更なる検討を進めるとともに、合意形成に向けた取組や短期的に実施可能な交通環境改善策の一層の推進を図ってまいります。

つきましては、これまでの市の取組を踏まえ、鎌倉市内の渋滞対策として、特に、以下の要望の実現について、貴省において格段の御配慮を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

記

1. ロードプライシングの早期実現を目指した、より一層の制度的、技術的な支援
(課金を前提とした地域内の交通シミュレーション及び収支モデルの検討、制度検討協力等)
2. 交通環境の改善を目指した、短期的な取組に関する技術的な支援

令和2年(2020年)1月15日

鎌倉市長 松尾 崇

